

生まれてきた尊いいのち～花まつりに寄せて

平成27年4月第1週放送

本日は、私たち一人一人のいのちの尊さを、少し違う視点から考えていきたいと思います。

今回は、人の死に関わる統計資料をご紹介します。今日の日本で、いったい一年間に何人の方が亡くなられているかご存知でしょうか？

最も新しいものは『平成二十五年人口動態統計』に掲載されています。これによりますと、平成二十五年に亡くなった方は、百二十六万八千四百三十六人だそうです。

さらに、別の資料に目を向けてみますと、身体的・社会的・経済的などさまざまな問題があって、この世に生まれてくることなく、いのちを終えてしまったお子さんの人数を、同じ年に日本で生まれた新生児の人数をもとに計算すると、母親のお腹に宿った赤ちゃんの、実に六人に一人は生まれてくることができなかったということもわかります。これは、誰にとっても悲しいことです。

幸いにして私たちは、数え切れないくらいたくさんのご先祖様が存在していのちをつなぎ、そして母親のお腹の中に宿り大切に育まれ、そして、この世に産声を上げて生まれることができました。私たちが生まれてきたのは当たり前のことなのではありません。それはもう、数え切れないたくさんのご縁が積み重なって、ようやくこの世にいのちをいただいているのです。

まもなく迎える四月八日は、お釈迦さまの誕生日「花まつり」です。多くのお寺では、右手で天を指し左手で地を指す姿の誕生仏、うまれたばかりのお釈迦さまの像を祀り、甘茶をかけてお祝いをします。そして私たちも、お釈迦さまのお誕生をお祝いし、その甘茶をいただくことで、いのちの尊さに気付くのではないのでしょうか？

お釈迦さまは、生まれてすぐ「天上天下唯我独尊」と宣誓されたという言葉伝えがあります。それは、この世に生まれた誰もが、二つとない存在、独立した存在として、尊いいのちをもらい受けているという意味なのです。

全てのいのちの尊さを互いに讃え、全てのいのちのありがたさを互いに喜び日、それがお釈迦さまの誕生日、四月八日の過ごし方です。

— 終 —